

エズラ 7:1~10 エズラは、宝の禅法を調べ、これを実行し、イスラエルでおきてと覚めを教えようとして、 心を覚めていたからである。 (10)

#### 1. エズラという人がいました

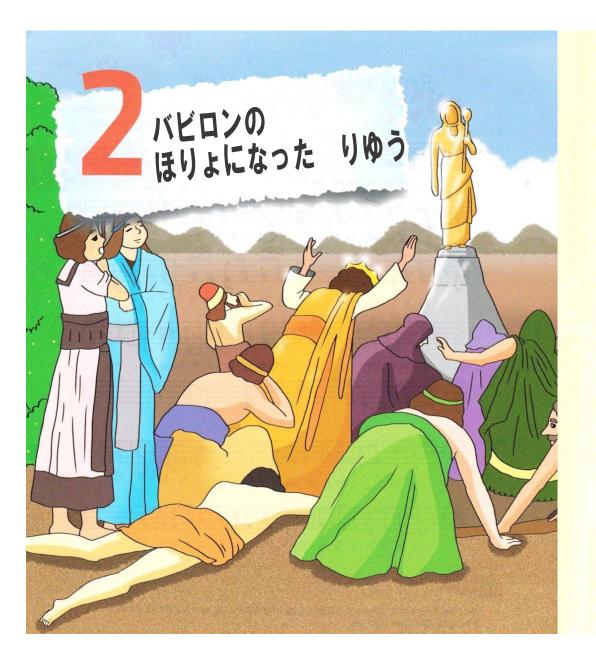
- 1) 「主が助けられる」という意味が込められた名前でした 彼は祭司、学者、改革者でした(エズラ7:6)
- 3) 捕虜時代の預言者でした(エズラ7:6~10)

## 2. クロス王時代の指導者でした

- 1) B. C 539 10月にクロス王がバビロンを征服しました
- 2) B. C 538 捕虜になったユダヤ人はエルサレムに帰るように命令を下しました
- 3) B. C 515 エズラの使命が始まりました

# 3. エズラの働きがありました

- 1) みことば運動を起こしました(エズラ7:1~6)
- 2) 宗教改革を起こしました(エズラ7:6~10)
- 3) 会堂運動を始めました



エズラ 1:1~4 あなたがた、すべて堂の罠に属する者はだれでも、その神がその者とともにおられるように。その者はユダにあるエルサレムに売り、イスラエルの神、堂の営を建てるようにせよ。この芳はエルサレムにおられる神である。 残る者はみな、その者を援助するようにせよ。どこに寄留しているにしても、その所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の営のために進んでささげるささげ物のほか、鍛、釜、財貨、家畜をもって援助せよ。(3~4)

### 1. 福音がなくなった時代でした

- 1) 偶像崇拝が満ちていました
- 2) ゼデキヤは無能な王でした
- 3) B. C 606年頃、ユダヤ人がバビロンの捕虜になった事件です

### 2. Remnantが崩れた時代でした

- 1) エルサレムの滅亡を悲しく歌いました(哀歌4:1~5)
- 2) 焼き払われた 所 に切り株は残ると言われました (イザヤ6:13)
- 3) 起きよ、光を放てと言われました(イザヤ60:1~22)

### 3. 伝道と宣教が崩れた時代でした

- 1) 神様が望まれた宣教がありました(イザヤ62:6~12)
- 2) 神様はエレミヤを通して預言されました(エレミヤ33:1~3)
- まんきょうかいふく 3) 宣教回復と神殿回復がありました(エズラ1:1~4)



エズラ 1:1~6:20 祭司とレビ人たちは、ひとり残らず身をきよめて、みなきよくなっていたので、彼らは構造から 帰って来たすべての人なのため、また、彼らの党第の祭司たちのため、また、彼ら首身のために、過越のいけに えをほふった。(6:20)

## 1. クロス王の出現と命令がありました

- 1) 当時はペルシア時代でした(エズラ 1:1)
- 2) ペルシア王クロスは主の主権を認めた人でした (エズラ1:2~3)
- 3) 微はユダヤ人がエルサレムに戻って神殿を前建するように命令を下しました (エズラ1:3)

## 2. 神殿再建が始まりました

- 1) 神殿工事を始めるとき、以前の神殿を見た人たちは大声をあげて泣きました (エズラ3:12)
- 2) レフムとシムシャイの妨害のためにダリヨス王の時まで神殿建築は中断されました(エズラ4:7~24)
- 3) ダリヨス王が神殿再建の工事を再開するように命令を下し、神殿建築を完成するようになり、神殿奉献式も行ないました(エズラ6:1~18)

#### 3. 過越の祭りを守りました

- 2) エズラがエルサレムに帰還しました(エズラ7:1~10)
- 3) アルタシャスタ王の命令がありました(エズラ7:11~28)

#### てきょう **適用**

下の聖書箇所を祈る心で読んで書いてください。神様のみことばを声を だ出して読めば、すで聞くとき、私のたましいがいやされて、信仰が 生まれます。

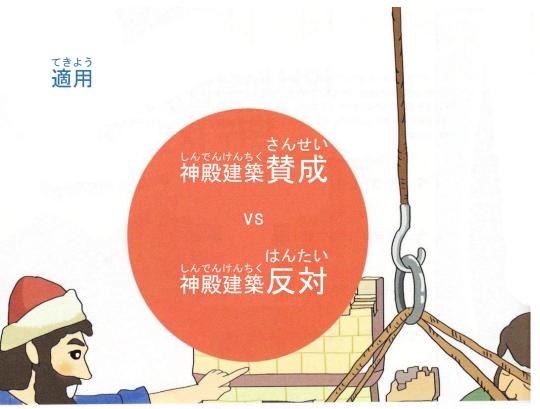
- 6:20 祭司とレビ人たちは、ひとり残らず身をきよめて、みなきよくなっていたので、彼らは捕囚から帰って来たすべての人々のため、また、 彼らの兄弟の祭司たちのため、また、彼ら自身のために、過越のいけにえをほふった。
- 6:21 捕囚から戻って来たイスラエル人と、イスラエルの神、主を求めて、 この国の異邦人の汚れから縁を絶って彼らに加わったすべての者たちとは、 これを食べた。
- 6:22 そして、微らは七日間、種を入れないパンの祭りを喜んで守った。 これは、主が彼らを喜ばせ、また、アッシリヤの王の心を彼らに 向かわせて、イスラエルの神である神の宮の工事にあたって、彼らを 力づけるようにされたからである。

20.	
21.	
22.	
15 470160	

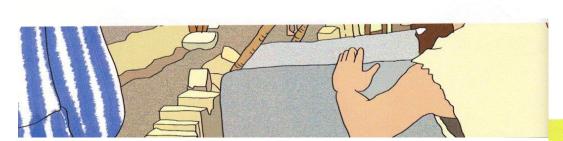


エズラ 7:1~10:44 そこで、私はその所、アハワ川のほとりで断後を希告した。それは、私たちの神の前でへりくだり、私たちのために、私たちの子どもたちと、私たちのすべての持ち物のために、道中の無事を神に願い策めるためであった。私は道中の敵から私たちを助ける部隊と騎兵たちを皇に求めるのを恥じたからである。私たちは、かつて皇に、「私たちの神の御手は、神を与ね策めるすべての署の上に、本の力と怒りとは、神を捨てるすべての署の上に下る」と言っていたからである。だから、私たちはこのことのために断後して、私たちの神に願い求めた。すると神は私たちの願いを聞き入れてくださった。(8:21~23)

- 1. エズラは神殿に仕えるレビ人を探しました(エズラ8:15~20)
- 2. エズラは断食祈りをささげながら神様に求めました(エズラ8:21~23)
- 3. 神殿にささげ物をささげました(エズラ8:24~29)
- 4. 異邦人との結婚に対して悔い改めの祈りをささげました(エズラ9:1~15)
- 5. イスラエルの大集団が悔い改めました(エズラ10:1~17)



神殿をもう一度建てなければならないという人と 神殿をもう一度建ててはならないという人が同じくらいの力で、戦っています。 お互い、どんな話をやりとりしているのか、想像して書いてみましょう









しん	でん	けん	ちく	さん	せい
抽	巸	鋛	箛	賛	랎
ፐሞ	卅又	迚	未	貝	ルル









